第44回 一日舞踊大学講座2026 ダンスと教育

現代舞踊協会研究企画部では、未来の文化を担う次世代の若者に視点を繋ぎます

助成：文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成））
｜独立行政法人日本芸術文化振興会

山崎広太 workshop

わたしと他者
わたしの身体の中に
存在する向こう側

「わたし」の存在と、知覚できない存在する向こう側、他者を、私たちの身体の中に感じ、探るワーク

私たちの身体から、他者を感じることはできるのだろうか？
こちら側と知覚できない向こう側は独立であるわけでも、
現象学的な実在のように直接に相関するわけでもなく、存在する。
それは、まさに、知覚できない存在する向こう側ゆえに、すなわち
外部ゆえに、論理的認識者として「わたし」は存在するのである。
それは素朴に外部を取り込んで内形式化する「わたし」でもないし、
他者と場を共有することで存在する「わたしたち」でもない。
「わたし」の論理性を壊すものが外部に位置付けられることで
「わたし」の論理性は存在し得るのである。

（郡司ペギオ幸夫著「かつてそのゲームの世界に住んでいたという記憶はどこから来るのか」より）

2026.2/8［日］

9時50分～16時00分

会場：スタジオF

豊島区目白2-12-4

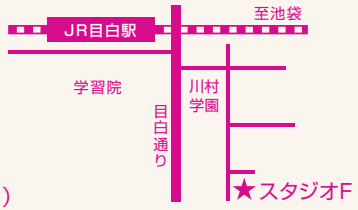
JR山手線「目白駅」より徒歩5分

山崎広太の近年の活動は、日本のコンテンポラリーダンスの世界の枠をぶち壊すかのような熱量で、社会、地球、宇宙に目を向け、世界を舞台に、そのスケールは大きい。人間としての原点に立ち、確固たる思考、哲学とともに舞踊活動を行なっている舞踊家である。その根底には、人間の本能、自然、人との関わりなど、芸術を生み出す根源的なことを身体で受けとめ感じる、純粋さ、豊かな感性を持ち合わせている。世の中を理性的に見つめる知性、社会性もありながら、どこにでも飛び込んでいき、半端なくぶっ飛ぶことのできる、どこか人間くさい奇才である。1995年～2001年、「rosy.Co」を主宰し、日本のコンテンポラリーダンスの頂点にいた山崎は、2001年、世界放浪の旅に出た。2003年のアフリカ、セネガルでのダンス作品共同振付は、大成功を収め、これをきっかけに、海外を拠点とする活動へとシフトした。90年代に時代を突っ走っていた彼は、洗練された技法で作品を次々と発表し、誰もが憧れる存在だった。そして、今、彼は、より人間的に骨太な、素の自分もさらけ出せる大きな人間となって、グローバルな視点に立ち、魅力的な作品を創作し続けている。アナーキーなスタンスで、独自の作品世界を築き、アメリカの大学で指導する中で培われた自由で、クリエイティブな芸術教育の精神、人間学の基本理念を軸に、踊り、創る。
そんな、ちょっと得体の知れない、強烈な個性の人物を知り、学びたいと思う。

2026.2/8［日］

9時50分～16時00分
（9時20分より受付）

会場：スタジオF
豊島区目白2-12-4
JR山手線「目白駅」より徒歩5分



参加費（税込）：
一般 4,500円　協会員 3,500円
学生 3,000円 半日参加 3,000円
定　員：30名（定員になり次第締め切り）

10:00～12:00　ワークショップ
わたしと他者 ― わたしの身体の中に存在する向こう側
講師：山崎広太

13:00～14:30　座談会
〈予期せぬ関係性〉を創出する山崎広太のダンス
パネラー：山崎広太　國吉和子　児玉初穂　加藤みや子

14:40～15:40　受講生によるデモンストレーション

●申込締切 2月2日（月）　●お問い合わせ（一社）現代舞踊協会事務局
〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-21-3 グレイス代官山402号　TEL.03-5457-7731
登録番号T3011005000007

●申込方法

現代舞踊協会　検索

Webからのお申し込みは、現代舞踊協会ホームページ内「一日舞踊大学講座」の申込フォームより送信ください。

FAX 03-5457-7732

FAXからのお申し込みは、下記申込用紙に全項目を読みやすい文字で明記の上、左記FAX番号へ送信ください。

主催：一般社団法人現代舞踊協会　企画・制作：一般社団法人現代舞踊協会研究企画部
芸術監督：加藤みや子　馬場ひかり　制作統括：藤井 香　制作補佐：細川麻実子　横田 恵　会計：堀 和子

山崎広太 (Kota Yamazaki)
笠井叡に師事。07年ニューヨーク・パフォーマンス・アワード・ベッシー賞受賞、12年NEFA財団より12、15年ナショナル・ダンス・プロジェクト助成、13年FCA受賞、17年NYFAフェロー、18年グッゲンハイム・フェロー受賞。Body Arts Laboratory主宰。2021年よりベニントン大学客員教授。2024年Footnote New Zealand Danceとの協働コラボレーション作品「薄い紙、自律するシナプス、遊牧民、トーキョー（する）」で東京、愛知で上演。2026年1/28-31日「右の眼、交差するデリカシー、青炎球、骨と直線（する）」を旧ノグチルーム（慶應義塾大学、土方巽アーカイブ）、9、10月すみだ五彩の芸術祭に参加。2027年USツアー予定。

――山崎はクラシック・バレエと舞踏にルーツを持つ振付家・衣装デザイナーである。声を使った問いかけや言葉遊びも多く、繊細、かつ意識的、そして意図的に空間へ出入りしながら、ダンスフレーズと完璧なリズムで交錯する。ダンサーたちの絶え間ない動きは恍惚と詩的であり、それぞれ独自のダンス言語を展開する。
山崎のライフワークは、異なる文化的・技術的背景を持つダンサーたちが、建築や美術など他分野と交わる「予期せぬ関係性」を創出することにある。

（NZダンス評より抜粋）

國吉和子
舞踊研究、評論家。トヨタコレオグラフィーアワード審査員（2002～04年）。著書『夢の衣裳、記憶の壺舞踊とモダニズム』（02年、新書館）、編著市川雅遺稿集『見ることの距離―ダンスの軌跡1962 1996』（00年、新書館）、主な論考「『病める舞姫』試論―そして絶望的な憧憬」（『土方巽言葉と身体をめぐって』11年、角川学芸出版）、「暗黒舞踏登場前夜―戦後日本のモダンダンスと大野一雄」（12年、思潮社）、「大野慶人のレクチャー・パフォーマンス<命の姿>について」（19年、勁草書房）、「やめまひの会」（旧「舞姫の会」土方巽研究）主宰。

児玉初穂
舞踊評論。1997年第7回日本ダンス評論賞第一席受賞後、『ダンスワーク』『ダンスマガジン』『バレエ』『オン★ステージ新聞』等に寄稿。『音楽舞踊新聞』で2003年から2016年休刊までバレエ評を担当した。著書にインタビュー集『舞台の謎』（酒井はな・藤井直子・森田健太郎・逸見智彦・吉田和人・昆野まり子・山崎広太・武藤大祐―ダンスワーク舎、2005年）。ブログ『舞台の謎』https://taku-ma25.hatenablog.com/ に公演評を掲載中。

加藤みや子
ポストモダンダンスの流れを引きつつ、繊細さ、間の感覚など、日本的感性をもち、独自の世界を展開している。加藤みや子ダンススペース主宰。森嘉子、藤井公、利子に師事。仏・バニョレコンテ、伯・巡回公演（国際交流基金主催事業）、米・フェスティバル巡演等に招聘され高く評価される。83年よりアネックス仙川ファクトリーを拠点に各地で五感を開くワークショップやアーティスト交流の場、HHWを開催。江口隆哉賞、ニムラ舞踊賞など受賞。現代舞踊協会常務理事。日本大学藝術学部非常勤講師。

一日舞踊大学講座申込書

＊ダンスプラン出演者の方は ☑ をして下さい。 □　所属研究所／舞踊団名

フリガナ
氏名　　TEL　　E-mail ＊携帯でも可ですが、諸連絡の都合上、できるだけパソコンのアドレスをご記入下さい。

住所　〒

（○をお付け下さい）
一般／協会員／学生・高校生／半日参加